

【資料2】平成27年度日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス・SC2016 実施報告

1. 開催日程 2016年2月2月12日(金)、23日(土)

2. 開催場所 全国家電会館5F講堂(東京都文京区湯島3-6-1)

3. プログラム

第1日(2月12日)

○開会挨拶 会長 原 量宏(香川大学)

○特別企画-1 シンポジウム「デジタルパソロジーの現状と課題解決への歩み」

共催: 日本デジタルパソロジー研究会

座長: 白石 泰三(三重大学)、東福寺 幾夫(高崎健康福祉大学)

1 医療における病理診断の現状とデジタルパソロジーの意義 白石 泰三(三重大学)

2 デジタルパソロジーのエビデンス バーチャルスライド一次診断の検証実験 森 一郎(国際医療福祉大学)

3 デジタルパソロジーと保険診療上の課題 転送病理画像診断による1次診断保険収載を目指して 佐々木 毅(東京大学)

4 デジタルパソロジーネットワークの成果と国際化への対応 真鍋 俊明(滋賀県立成人病センター)

5 デジタルパソロジー機器のガイドラインと標準化 東福寺 幾夫(高崎健康福祉大学)

6 WSI 共通 Viewer の必要性 近藤 恵美(サクラファインテックジャパン株式会社)

7 総合討論

○ランチョンセミナー-1 スポンサー: 在宅看護介護推進協議会、有限会社コスモス、日本精密測器株式会社、株式会社ユニティーネットワーク

座長: 渡辺 隆宏(有限会社コスモス)

1 ナーシングホームあい誉におけるICTの見守り・看取りについて 多田出 洋子(有限会社コスモス)

2 在宅等見守りの通信機能付血圧計、パルスオキシメータ、体温計 脇 倫夫(日本精密測器株式会社)

3 センサーを活用した見守りシステム 赤塚 香織(株式会社ユニティーネットワーク)

○分科会企画-1 シンポジウム「在宅生体モニタリング機器情報遠隔伝送のためのガイドライン」

企画: 在宅生体モニタリング機器情報遠隔伝送のためのガイドライン分科会

座長: 中村 昭則(信州大学)、滝沢 正臣(信州大学)

1 生体情報遠隔モニタリング開発と経緯 滝沢 正臣(信州大学)

2 多地点リアルタイム遠隔生体モニタリングシステム開発 吉川 健太郎(NHO まつもと医療センター・信州大学)

3 遠隔モニタリングとリンクした電子チームケアクラウドの開発 石川 哲男(キッセイコムテック株式会社)

4 アラーム外部伝送人工呼吸器の開発 鈴木 徹也 (オリジン医科工業株式会社)

5 パネル討論 生体遠隔モニタリングの必要性和将来展望

○特別企画-2 地域包括ケアシンポジウム「地域包括ケアを支える事業をどのように進めるか? ICTの活用から考える」

第1部・報告

座長:長谷川 高志 (群馬大学)

1 遠隔リアルタイムモニタリングの活用 笠原 真悟 (岡山大学)

2 介護予防型デイサービスの効果-ホルター心電図検査から 久保山 修 (つくばハートクリニック)

3 地域包括ケアのための ICT 見守りのシステム評価の提案 長谷川 高志 (群馬大学)

4 ICT を活用した重層の見守り-地域包括ケアに資するために 小川 晃子 (岩手県立大学)

第2部・招待講演

座長:長谷川 高志 (群馬大学)

地域包括ケアの展望 田中 広秋 (厚生労働省保険局医療介護連携政策課 課長補佐)

第3部・パネル討論

座長:小川 晃子 (岩手県立大学)

<国の立場から>田中 広秋 (厚生労働省保険局医療介護連携政策課 課長補佐)

<地域(行政・議会)の立場から>齋藤 昭彦 (岩手県立大学准教授、前岩手県保健福祉部長寿社会課統括課長)、杉森 弘之 (牛久市議会議員)、坂東 基 (岡山県新見市福祉部介護保険課 課長)

<地域(施設)の立場から>古川 明良 (岩手県釜石市特別養護老人ホーム「あいぜんの里」施設長)

<研究者の立場から>笠原 真吾 (岡山大学)、久保山 修 (つくばハートクリニック)

○情報交換会 (1F 会議室)

第2日 (2月13日)

○分科会企画-2 シンポジウム「精神科遠隔医療」

企画:精神科遠隔医療分科会

座長:岸本 泰士郎 (慶應義塾大学)、長谷川 高志 (群馬大学)

1 Telepsychiatry の展望と課題 治療経験を含めて 岸本 泰士郎 (慶應義塾大学)

2 テレビ会議システムを用いた認知機能評価の有用性 時計描画検査について 江口 洋子 (慶應義塾大学)

3 遠隔医療はビジネスとして成り立つか? 遠隔医療システムのコストと損益分岐点 栗津 和也 (株式会社 IIJ グローバルソリューションズ)

4 遠隔精神科医療をめぐる法制度と課題 平成 27 年通達からのもう一步 藤田 卓仙 (名古屋大学)

5 指定発言 小澤 寛樹 (長崎大学)

○一般演題-1

座長:近藤 博史 (鳥取大学)、守屋 潔 (旭川医科大学)

1 眼科専門医に簡単に相談できるサービス「メミルちゃん」の運用経験 世界初の眼科診療遠隔支援サービスを行って分かってきたこと 加藤 浩晃 (京都大学)

- 2 非皮膚科向けアプリ「ヒフミル」を通じて得た知見 オンライン診療に対する現在の認識 竹村 昌敏（三島総合病院）
- 3 高齢者のタブレット型テレナーシングシステム利用時における機器の障害事例 中島 紀高（聖路加国際大学）
- 4 高齢者の心の問題の解決方法 問診票と fMRI を活用した方法の可能性 勝間田 実三（慶應義塾大学）
- 5 米国高齢者施設における病院搬送の適正化の試み トリアージと情報共有による医療と看護のチーム連携 木村 功（Thousand Success Consulting 株式会社）
- ランチョンセミナー2 （遠隔講演）スポンサー：ポリコムジャパン株式会社
進行：尾崎 祐二（ポリコムジャパン株式会社）
テレビ会議システムを用いた地域医療再構築の試み てんかん診療における医療連携 白石 秀明（北海道大学病院）
- 一般演題-2
座長：松本 浩樹（前橋工科大学）、本間 聡起（地域医療機能推進機構）
- 1 遠隔医療システムにおける情報セキュリティ 岡崎 浩幸（前橋工科大学）
- 2 地域医療連携システムのコスト オシドリネットにおける標準化と経費 近藤 博史（鳥取大学）
- 3 遠隔医療に必要な医療フローの検討 八幡 勝也（住田病院）
- 4 コミュニケーション用ロボットの一般普及が及ぼす遠隔医療への影響 坂田 信裕（獨協医科大学）
- 厚生労働科学・遠隔医療研究班報告
座長：酒巻 哲夫（高崎市医師会看護専門学校）
遠隔医療の有効性・安全性の定量的評価に関する研究 長谷川 高志（群馬大学）
- 日本遠隔医療協会報告
座長：酒巻 哲夫（高崎市医師会看護専門学校）
平成 27 年度厚生労働省事業 遠隔医療従事者研修報告 長谷川 高志（群馬大学）

4. 参加者数	事前登録	111 人
	当日参加	52 人
	合計	163 人

5. 参加費

	会員	非会員	学生
事前登録参加費	8,000 円	10,000 円	4,000 円
当日登録算会費	10,000 円	12,000 円	4,000 円
情報交換会参加費	5,000 円		

以上。